

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間: 令和3年4月～令和8年3月(5年)

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市では、令和3年4月以降、認定基本計画に基づき「時代（とき）・エリア・人をつなぐ」をテーマに、第1期計画の検証を踏まえ、「快適・安全で市民や観光客が集まる魅力あるまちづくり」、「人が集い、回遊したくなる魅力を生む仕組みづくり」、「まちづくりを支える人材の育成及び商業活動の活性化による賑わいづくり」の3つの基本方針のもと、ハード事業及びソフト事業を含め、76事業に取り組んだ。

結果としては、14事業が完了し、60事業が着手・実施中、2事業が未実施となっている。

令和5年8月にオープンした多機能型図書館と子育て支援機能を併せ持つ、遊びと学びの交流施設「くるんと」（以下、「くるんと」）は令和7年度末で約84万人に来場いただいております。子育て世代活動センターと図書館以外にも、施設内に併設された交流ラウンジや多目的ルームの利用を目的として訪れる人も見られ、交流の拠点となっており、賑わいの創出に繋がっている。また令和5年度から行っている「くるんと」を核とした官民連携でのイベントも昨年度で3年目を迎え、市内外からの誘客に繋がっている。令和7度は従前から行ってきた大規模イベントだけでなく、人材育成にも着手しており、市内の若手キーマン同士の交流の場を創出した。

また都市計画道路桐町成田線の街路整備が令和6年3月に完了したことにより、安全で歩きたくなる歩行空間の形成が図られており、「くるんと」をはじめとする公共施設へのアクセス強化に繋がった。

併せてタスビル整備事業においては令和6年6月に客室内装、設備の高機能化等の整備が終了し、観光客やビジネス客を受け入れているところである。改装後の宿泊者数は順調に増加傾向にある。具体的には、宿泊者数が令和4年度に13,364名だったが、令和7年度には15,466名となり、中心市街地区域内の滞在と交流の拠点として機能している。

一方で、現状としては拠点整備の成果によって来場者が増加した施設もあるものの、その後の街中への回遊までには繋がっていないことや、まちづくりを牽引する人材の不足が課題となっている。今後は「くるんと」への集客を活かし、既存施設等とつなぎ合わせた公共空間を活用して商店街やまちづくり団体等を巻き込んだ官民連携でのイベントの開催等を行うことにより新たな魅力の創出や中心市街地の活性化を図り、空き地・空き店舗の解消を図ることを目指す。また、施設利用者への市内店舗の認知度向上に向けた取り組みや気軽に利用しやすい店づくり、景観づくりについて官民一体となって検討を進め、よりまちなかのにぎわいが恒常的に創出できるよう取り組みを進めていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	令和2年度 （計画前年度）	令和3年度 （1年目）	令和4年度 （2年目）	令和5年度 （3年目）	令和6年度 （4年目）	令和7年度 （最終年度）
人口	3,817	3,626	3,533	3,412	3,360	3,279
人口増減数	△64	△191	△93	△121	△52	△81
自然増減数	△20	△28	△33	△49	△38	△38
社会増減数	△44	△163	△60	△72	△14	△43
転入者数	217	120	110	132	143	158

(2) 地価

(単位：円/㎡)

(中心市街地 区域)	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (最終年度)
東町 10-14	19,200	19,000	18,900	18,800	18,700	18,600

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね予定通り進捗・完了した

②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

計画していた76事業のうち14事業が完了し、60事業が着手・実施中、2事業が未実施と、事業の実施率は97.3%であり、概ね順調に進捗したと考える。

各施設の利用者数の測定値については、令和7年度は319,148人(目標値201,700人)と目標値を達成することができた。これは令和5年9月にオープンした「くるんと」の利用者数が大きく寄与している。また旧長井小学校についても徐々に認知度が向上してきたことによる恒常的な利用者の増加やイベントの実施による集客による増加で利用者数を伸ばした。加えて、「けん玉広場スパイク」についても、長井けん玉のふる里プロジェクト事業に従事する地域おこし協力隊を中心とした定期的なイベントの実施やSNSを活用した積極的な広報の取り組みが施設利用の促進に繋がっていると推測され、利用者が増加傾向にある。

一方で、歩行者通行量は減少し、「歩行者通行量」は、最新値1,400人/日と、目標値の2,300人/日を下回る結果であった。また、中心市街地の居住人口について人口減少の影響を受け、減少傾向が続いている。ただし、目標指標である本来何も措置を講じなければ減少する見込みで、かつコロナウイルス感染症の影響を受けていたにも関わらず、歩行者通行量が、令和4年度から令和6年度まで右肩上がり増加しており、事業を行ったことで負の影響を最小限に抑えることができた。令和7年度については、熊の出没が前年度に比して通報(現場対応)件数が115件と令和6年度に比して91件増加(約4.8倍)、モーションセンサーカメラの確認件数も326件で令和6年と比して197件増加(約2.6倍)と急激に増加しており、行政側からも繰り返し注意喚起を行ったこともあり、熊出沒が歩行者通行量の減少の要因になったと考えられる。また、中心市街地にも熊が出没しており、主要な公共施設である「くるんと」付近にも確認されたことも歩行者通行量に影響したと推測される。

「空き地・空き店舗解消数」については目標値の25件にはあと一歩及ばなかったものの令和7年度で24件となり、新型コロナウイルス感染症の影響が生じていた時期もある中で目標値に近い数値となった。

こうした状況から、商店街の営業店舗の減少や空き地の増加など課題はあるものの、本計画に基づいた事業の遂行によって中心市街地においては若干の活性化が図られたと考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

基本計画案の各事業を実施する際、内閣府をはじめ関係省庁及び関係機関・団体、民間事業者等と緊密に連絡し、事業内容の見直しや新たな事業の追加等の必要性が生じた場合は速やかに協議を行ったため、事業が円滑に遂行された。

認定基本計画の目標である「都市機能の充実」については、「各施設利用者数」において目標値を上回った。しかし、「まちなかの回遊機能の向上」については、「歩行者通行量」において目標値を下回った。「賑わいの創出」については「空き地・空き店舗解消数」において目標値には届かなかったが、目標値に迫る数値となり、コロナウイルス感染症や人口減少等の影響を踏まえると、取り組み効果が表れていると考えられる。以上のことから、計画策定時より若干の活性化が図られたものと判断できる。

長井駅南側に立地し、来館者数を確保できている「くるんと」からの回遊性を今以上に高めるため、施設利用者への市内店舗の認知度向上に向けた取り組みや気軽に利用しやすい店づくり、景観づくりが必要である。中心市街地活性化においては各商店街の持続・活性化が必要不可欠であることから、需要調査や商圈調査等の分析に基づいた商店街の将来ビジョンづくりが求められる。協議会としても長井市、長井商工会議所、（一財）置賜地域地場産業振興センター、商店街における各主体の連携を強化し、魅力ある商店街振興を促進していきたい。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

令和7年度と令和2年度の市民アンケートの結果を比較すると以下のとおりであった。

○調査概要

【令和7年度実施】

長井市中心市街地活性化に関する市民アンケート調査

調査日：令和7年12月8日～令和8年1月16日

調査方法：郵送による無記名アンケート

回収率：40.5%（405名）

【令和2年度実施】

長井市中心市街地活性化に関する市民アンケート調査

調査日：令和2年11月30日～令和3年1月22日

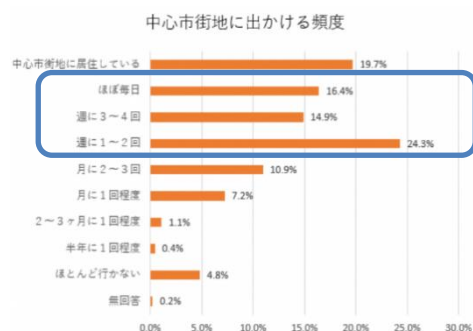
調査方法：郵送による無記名アンケート

回収率：45.7%（457名）

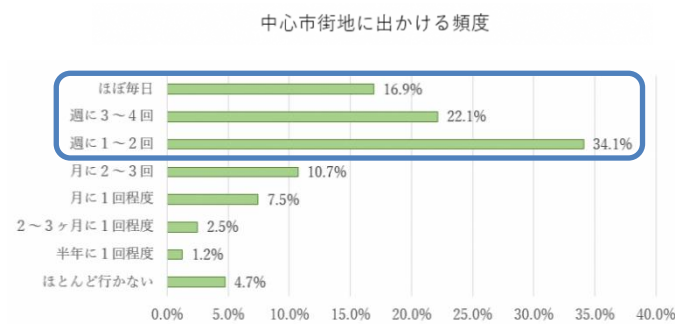
・「中心市街地に出かける頻度」が週1回以上と回答した人の割合（就業・就職を除く）

R2：55.6% ⇒ R7：73.1%（17.5%増加）

【令和2年度】



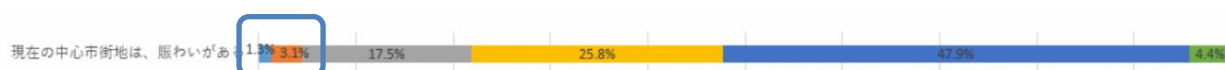
【令和7年度】



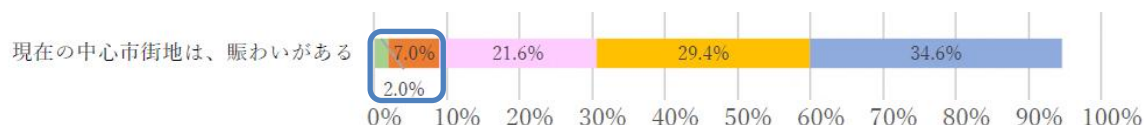
・「現在の中心市街地は、賑わいがある」という問いに、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した人の割合

R2：4.4% ⇒ R7：9.0%（4.6%増加）

【令和2年度】



【令和7年度】

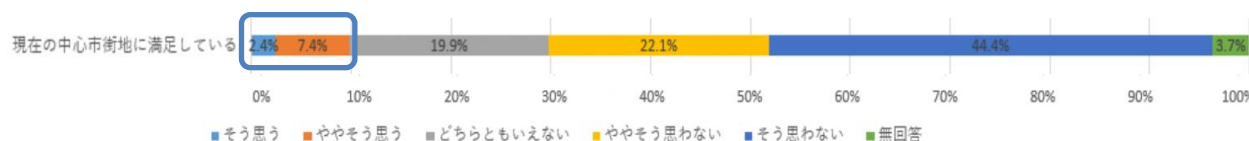


■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ ややそう思わない ■ そう思わない

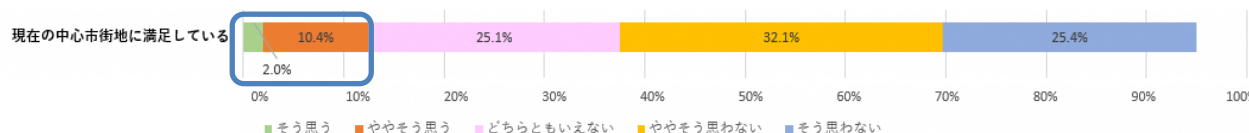
・「現在の中心市街地に満足している」という問いに、「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した人の割合

R2：9.8% ⇒ R7：12.4%（2.6%増加）

【令和2年度】



【令和7年度】



以上の結果のとおり、中心市街地に週1回以上訪れる人は令和2年度と比較すると、17.5%増加している。そのほか中心市街地への満足度に対しても肯定的な回答が増加していることから、市民意識の変化としても若干の活性化が図られたと言える。

6. 今後の取組

計画認定及び各種事業の実施により一定の効果が出たといえるが、中心市街地内での回遊性の向上には繋がっていないため、今後は賑わい創出の効果を中心市街地全体へ波及させることが重要であると考えます。

第2期計画で拠点整備が進み、来場者数が増加した施設もあるが、その後の街中への回遊までには結びついていない。市民アンケートからも中心市街地への印象について肯定的な回答がある一方、現状について不満とする回答も提示されており、活性化に向けた更なる取組が必要である。

今後は、これまでの計画に基づいた取り組みの成果を生かしながら、令和8年3月17日に認定を受けた第3期中心市街地活性化基本計画において、目標として掲げた「未来」を「つくる」新たな人の流れと交流による賑わいの創出と持続可能なまちの実現に向けて、取り組みを進めていく。

具体的には、商家を生かした文教の杜エリア、川のみなと公園のハード整備と併せて、各施設の特色を生かした事業や集客イベントを実施することで、市民や観光客が滞在したいと思える空間の形成を図る。また、DMO事業による区域内観光の情報発信や様々な旅行商品を提供することで、回遊したくなる魅力を生む仕組みづくりを進める。そして空き地・空き店舗のスペースを活用したイベント開催や空き店舗のマッチング事業、まちづくりを牽引する人材を育成するためのワークショップ等を開催することで商業活動の活性化を進める。

今後は、既存の取り組みで継続する事業はもちろん、新たに取り組む事業についても目標の達成状況に関する目標指標に基づく評価を行い、PDCAサイクルを継続する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
都市機能の充実	各施設利用者数(人/年)	128,756人 (R1)	201,700人 (R7)	187,111人	319,148人 (R7)	R8.3	A
まちなかの回遊機能の向上	歩行者・自転車等通行量(平日・休日の合計)	2,125人 (R1)	2,300人 (R7)	2,265人	1,400人 (R7)	R7.9	C
賑わいの創出	空き地・空き店舗解消数(件)	— (R1)	25件 (R7)	20件	24件 (R3~R7)	R7.10	B1

<達成状況の分類>

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

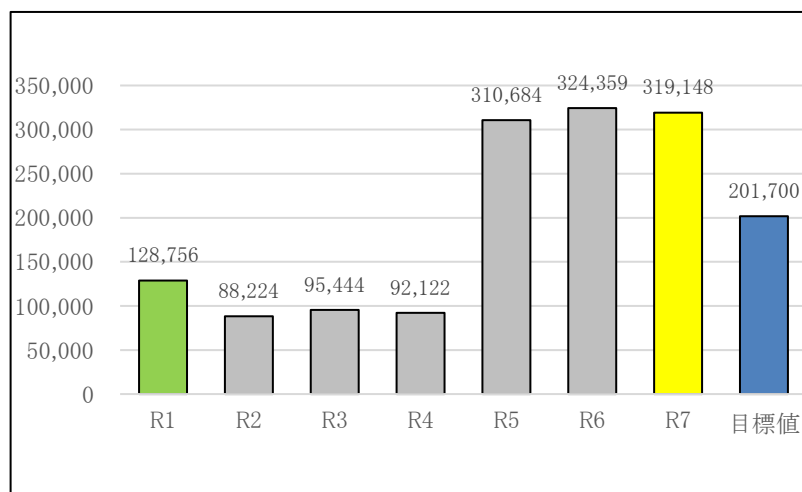
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、英字を小文字にして英数字に下線を引いて下さい。（例：a、b1、b2、c）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「各施設利用者数」(目標の達成状況【A】)

※目標値設定の考え方認定基本計画 P6 3～P6 6 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R1	128,756 (基準年値)
R2	88,224
R3	95,444
R4	92,122
R5	310,684
R6	324,359
R7	319,148
R7	201,700 (目標値)

※調査方法：図書館、子育て支援施設、文教の杜、旧長井小学校第一校舎、けん玉広場スパイクの利用者数を集計

※調査月：令和7年4月～令和8年3月

※調査主体：長井市

※調査対象：各施設利用者

○測定地点

(公共複合施設完成前)

施設名
図書館
子育て支援施設
文教の杜
旧長井小学校第一校舎
けん玉広場スパイク

(令和5年度調査時点)

(公共複合施設完成後)

施設名
公共複合施設(図書館)
公共複合施設(子育て)
文教の杜
旧長井小学校第一校舎
けん玉広場スパイク



(単位：人)

	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
図書館	18,914	23,520	21,548	113,176	117,339	113,769
子育て支援施設	2,125	2,450	2,203	111,662	136,215	131,008
文教の杜	3,526	5,049	5,475	6,880	6,226	6,311
旧長井小学校第一校	62,152	62,595	60,027	75,247	60,914	63,437
けん玉広場スパイク	1,507	1,830	2,869	3,719	3,665	4,623
合計	88,224	95,444	92,122	310,684	324,359	319,148

〈分析内容〉

「各施設利用者数」の増加に向けた主要事業については、概ね予定どおりに完了した。

図書館及び子育て支援施設の最新値は昨年度よりも減少しているものの、オープン当初に利用者が集中していた影響が大きく、その反動と捉えられる。また従前の施設利用者数と比較すると引き続き高い水準で推移している。旧長井小学校第一校舎は、認知度が徐々に向上してきたことによる恒常的な利用と同施設を活用したイベントをきっかけとした来館による利用が増え、利用者が毎年度6万人以上と高水準を保つことができている状況である。けん玉広場スパイクについても施設規模が小規模であるにも関わらず、最新値は4,623名と令和2年度の計画前年度と比して大幅に伸びており、安定的に利用者が増加している。これは、長井けん玉のふる里プロジェクト事業に従事する地域おこし協力隊を中心とした定期的なイベントの実施やSNSを活用した積極的な広報の取り組みが施設利用の促進に繋がっていると考えられる。また昨年度は、世界からけん玉プレイヤーが集まる“けん玉ながいカップ”を中心市街地区域内の体育館を会場に開催し、会場を中心とした中心市街地への参加者の誘導に寄与した。

今後も安定した集客を継続できるよう、行政やアルカディア観光局、民間事業者等の事業者間で相乗効果を生み出す取組に繋がるよう事業を進め、さらなる観光客数の増加を目指していく。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 公共複合施設整備事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	多機能型図書館機能と子育て支援機能を併せ持つ複合施設を整備し、市民生活の向上や賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（都市再生整備計画（長井駅前地区））（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値：（図書館機能分）26,207人 （子育て支援機能分）44,483人 最新値：（図書館機能分）113,769人 （子育て支援機能分）131,008人
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画通りに進捗し、令和5年8月にプレオープン、9月にグランドオープンし、市内の方はもちろん県内外の方からご利用いただいている。施設全体の来館者数(R5.8.11～R8.3.31)は約84万人となった。
計画終了後の状況及び事業効果	子育て世代活動支援センターは、子育て相談機能や一時預かり機能、屋内遊技場等を備えているため、子育て中の方々が家族や友人同士で外出できる環境として機能している。 多機能型図書館は、単なる本の貸し借りの場であるだけでなく、自宅、学校や職場に続く居心地の良い第三の場所（3rd Place）としての役割を果たしている。
事業の今後について	当施設の利用者がまちなかに回遊するよう、市内事業者とも連携し、継続的な賑わいの創出に向けたソフト面での取組を実施する。

②. 市庁舎・長井駅移転事業（長井市）

事業実施期間	令和２年度～令和３年度【済】
事業概要	令和２年度完成の新庁舎と長井駅の合築した建物へ市役所を移転するもので、分散していた役所機能を集約し市民の利便性の向上や賑わい創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値：１，０４０人増加 令和３年３月竣工、５月６日開庁。本事業目標値の設定にあたっては、フラワー長井線の乗降者増加見込みにより算出している。１日あたりの長井駅乗車人員は令和７年度（２月末時点）は１７８人と令和６年度の２０４人から減少している。
達成した（出来なかった）理由	減少要因としては、令和６年度末に運転手の相次ぐ退職で減便を余儀なくされたことが挙げられる。こうした状況もあり、新型コロナウイルス感染症の流行前の令和元年度（２４６人）までは回復していない状況である。
計画終了後の状況及び事業効果	長井駅と一体化し、分散した市役所機能を集約するとともに、防災拠点としての高い基準をクリアしたことで、市民の利便性向上を実現することができた。 駅のコンコースも兼ねた吹き抜けの開放感のある市民交流ホールには駅ピアノがあり、談話や憩いの場、学生の学習の場として幅広い年代の方々から利用されている。
事業の今後について	市庁舎市民交流スペースを活用した取組を実施することで、来庁者を増やし、駅周辺の回遊性を高めるための交流拠点のひとつとしての役割を担っていく。

③. 観光ボランティアガイド事業（長井市）

事業実施期間	平成２８年度～【実施中】
事業概要	ながい黒獅子の里案内人による観光ボランティアガイドを行うもので、市内のイベント期間のみならず、観光でまちを訪れた方にまち歩きをしながら長井の魅力を伝えるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値：８５０人増加 令和７年度のまちなか歩きの案内実績は３５３人であり、令和元年度実績の２，３０６人を下回る結果であった。
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響でバスによる団体旅行の減少と水陸両用バスの運行が豪雨被害の影響や渇水による水位低下による中止の影響、また猛暑による熱中症の懸念から夏場の開催を抑えたことが要因として考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	上記理由による影響で実績は減少したが、代わりとしてきれいな川にしか咲かない花「梅花藻」の案内を実施するなど、新たなまちあるきの魅力を創出した。ガイドによるまちあるき事業の実施により滞在時間が延び、来訪者満足度の増加、経済効果の向上に寄与している。
事業の今後について	気候状況に影響を受けないような市内の観光施設や観光体験にも魅力を感じていただき、まちなかの回遊性が生まれるよう事業を継続・拡大し実施していく。

④. 地域連携DMO事業（長井市、やまがたアルカディア観光局）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	長井市・南陽市・白鷹町・飯豊町・小国町の2市3町の地域の観光地域づくりを推進するため、滞在交流型観光等を企画・運営し、広く地域の魅力を発信するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和5年度） 〔認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和3年度）〕
事業目標値・最新値及び達成状況	事業目標値：436人増加 令和7年度の中心市街地に立ち寄る滞在交流型旅行商品の参加人数は262人（催行数25回）と、昨年度の実績364人（催行数29回）を下回る結果となった。
達成した（出来なかった）理由	当該事項については、長井市の観光商品の目玉である水陸両用バス等のアクティビティの利用客が市内滞在型旅行商品にも参加することが多い傾向にある中で、当該アクティビティが中止となったことが減少要因として挙げられる。
計画終了後の状況及び事業効果	「くるんと」や重要文化的景観の街並みを生かした旅行商品等の造成やインバウンド向けガイド等の人材育成、アドバイザーによる欧米豪向けモデルコース造成、国内高付加価値化商品造成に力を入れ、組織力、稼ぐ力の向上により、地域事業者との連携を図りより魅力的な滞在商品を造成できた。
事業の今後について	回復をみせているインバウンド需要、国内観光にむけて情報発信の強化を図る。また、SDGs 教育旅行プログラムにおける、まち歩きやけん玉を通したプログラムを実施するなど、まちなかの滞在時間を延ばし、域内経済活性化に寄与する事業を展開していく。

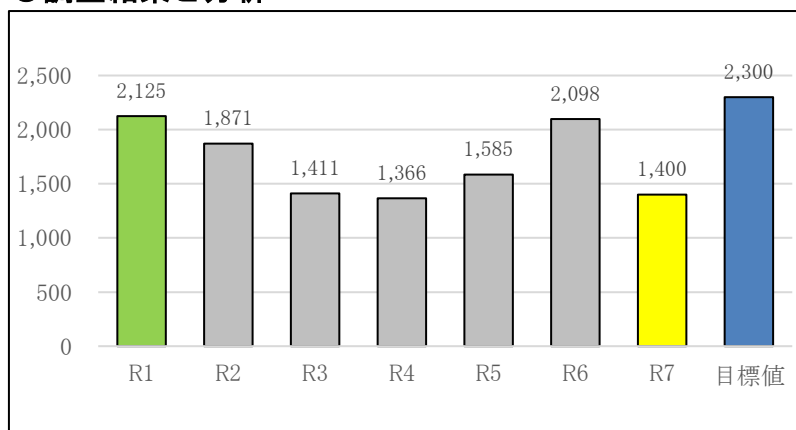
●今後の対策

主要事業のうち、ハード事業は予定どおりに完了しており、拠点整備の効果によって来場者数が増加した施設もある。しかしながら、新たな賑わいの拠点「くるんと」をはじめ、各施設からまちなかへの回遊まで及んでいないことから、今後は、インバウンド需要や国内観光に向けての情報発信や公共複合施設をはじめとした各施設を活用したソフト事業を継続して実施することで、施設の利用者数を増やすとともに、生まれた賑わいを中心市街地全体に波及させる仕組みづくりを進めていきたい。

（２）「歩行者・自転車等通行量」※目標設定の考え方認定基本計画（目標の達成状況【Ｃ】）

※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 67～P. 69 参照

●調査結果と分析



年	(人)
R1	2,125 (基準年値)
R2	1,871
R3	1,411
R4	1,366
R5	1,585
R6	2,098
R7	1,400
R7	2,300 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車等通行者、毎年９～１１月の平日、休日各１日ずつ、９時～１９時まで計測

※調査月：令和７年９月

※調査主体：長井市

※調査対象：中心市街地内の４地点（スパイク前、市民駐車場前、桑島記念館南側（旧東北労金前）、クロスバ前）における歩行者及び自転車等の通行量



（単位：人）

		令和２年度 (計画前年度)	令和３年度 (１年目)	令和４年度 (２年目)	令和５年度 (３年目)	令和６年度 (４年目)	令和７年度 (５年目)
スパイク前	平日	162	91	178	205	188	156
	休日	145	209	97	163	505	191
市民駐車場前	平日	647	306	357	406	418	296
	休日	186	284	182	174	276	176
桑島記念館南側 (旧東北労金前)	平日	59	32	89	93	87	88
	休日	56	83	34	60	110	74
クロスバ前	平日	365	120	258	275	248	188
	休日	251	286	171	209	266	231
合計		1,871	1,411	1,366	1,585	2,098	1,400

〈分析内容〉

歩行者・自転車等通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおりに完了した。歩行者通行量は令和５年度から令和７年度まで水陸両用バスの運行中止による市内観光客の減少やコロナ禍後の団体旅行客の減少の影響もあり、伸び悩んでいたものの、令和６年度にはスパイク前や桑島記念館南側は令和２年度に比して休日の通行量は増加した。この結果から、市庁舎・長井駅移転事業や公共複合施設整備事業等により道路を活用したイベントが定期的実施されるようになったことによる効果が現れたと考えられる。

一方で、令和７年度は基準値を下回る結果となっており、くるんと整備事業により生まれた賑わいをまちなかに波及することができなかった。これは、令和７年度は例年に比して熊出沒件数が増加し、かつ中心市街地にも熊が出沒したこともあり、徒歩や自転車等での外出控えが生じてしまったことが影響したと考えられる。

今後は、気候状況や熊出沒といった外的要因の影響を受ける中でも、各事業内容について工夫をこらし、中心市街地の各拠点、団体と連携した事業の実施により、まちなかへの人の流れをつくり、回遊性の向上とまちなかのにぎわいを恒常的に図っていきたい。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 都市計画道路鞆町成田線街路整備事業（山形県）

事業実施期間	平成２３年度～令和５年度【済】
事業概要	都市計画道路鞆町成田線における道路拡幅、歩道整備及び無電中化を行い、歩きたくなる歩行空間を形成するもの。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（道路事業（街路））（国土交通省）（令和３年度～令和５年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：クロスバ前 ８２人増加（基準値：５６５人） 令和５年度末に事業完了。 クロスバ前の実績は４１９人であり、令和元年度実績の５６５人から減少した。
達成した（出来なかった）理由	目標値に届かなかった理由としてコロナ禍後の団体旅行客の減少、人口減少に加え、令和７年度は熊出沒の増加による影響を受けていることが要因と考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	街路整備事業に併せて街路灯や道路拡幅、無電柱化を実施したことにより、交通面での利便性はもとより、景観形成や防犯にも寄与し、中心市街地にふさわしい重要な商店街通りとなった。また整備後には、道路を一時的に区間車両通行止めにし、飲食イベントを実施したり、交通規制をした道路でミニ SL やフリーマーケット等のコンテンツを開催したりと整備後の道路を活用した賑わい創出に資するイベントの開催を行うことができ、まちなかの回遊に寄与している。
事業の今後について	今後も継続して、整備した街路をイベントで活用するなど、ソフト面での取組を検討していく。

②. 観光ボランティアガイド事業（長井市）

事業実施期間	平成２８年度～【実施中】
事業概要	ながい黒獅子の里案内人による観光ボランティアガイドを行うもので、市内のイベント期間のみならず、観光でまちを訪れた方にまち歩きをしながら長井の魅力を伝えるもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値	事業目標値：全体で５人増加 令和７年度のまちなか歩きの案内実績は３５３人であり、令和元年

値及び進捗状況	度実績の2, 306人を下回る結果であった。
達成した(出来なかった)理由	新型コロナウイルス感染症の影響でバスによる団体旅行の減少と水陸両用バスの運行が豪雨被害の影響や渇水による水位低下による中止の影響、また猛暑による熱中症の懸念から夏場の開催を抑えたことが要因として考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	上記理由による影響で実績は減少したが、代わりとしてきれいな川にしか咲かない花「梅花藻」の案内を実施するなど、新たなまちあるきの魅力を創出した。ガイドによるまちあるき事業の実施により滞在時間が延び、来訪者満足度の増加、経済効果の向上に寄与している。
事業の今後について	気候状況に影響を受けないような市内の観光施設や観光体験にも魅力を感じていただき、まちなかの回遊性が生まれるよう事業を継続・拡大し実施していく。

③. 地域連携DMO事業（長井市、やまがたアルカディア観光局）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	長井市・南陽市・白鷹町・飯豊町・小国町の2市3町の地域の観光地域づくりを推進するため、滞在交流型観光等を企画・運営し、広く地域の魅力を発信するもの。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和5年度） 〔認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）（令和元年度～令和3年度）〕
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：全体で2,4人増加 令和7年度の中心市街地に立ち寄る滞在交流型旅行商品の参加人数は262人（催行数25回）と、昨年度の実績364人（催行数29回）を下回る結果となった。当該事項については、長井市の観光商品の目玉である水陸両用バス等のアクティビティの利用客が市内滞在型旅行商品にも参加することが多い傾向にある中で、当該アクティビティが今年度も中止となったことや熊被害による催行数の減少が要因として挙げられる
達成した(出来なかった)理由	当該事項については、長井市の観光商品の目玉である水陸両用バス等のアクティビティの利用客が市内滞在型旅行商品にも参加することが多い傾向にある中で、当該アクティビティが中止となったことが減少要因として挙げられる。
計画終了後の状況及び事業効果	「くると」や重要文化的景観の街並みを生かした旅行商品等の造成やインバウンド向けガイド等の人材育成やアドバイザーによる欧米豪向けモデルコース造成、国内高付加価値化商品造成に力を入れ、組織力、稼ぐ力の向上により、地域事業者との連携を図りより魅力的な滞在商品を作成できた。
事業の今後について	回復をみせているインバウンド需要、国内観光にむけて情報発信の強化を図る。また、SDGs教育旅行プログラムにおける、まち歩きやけん玉を通したプログラムを実施するなど、まちなかの滞在時間を延ばし、域内経済活性化に寄与する事業を展開していく。

④. 公共複合施設整備事業（長井市）

事業実施期間	令和2年度～令和5年度【済】
事業概要	多機能型図書館機能と子育て支援機能を併せ持つ複合施設を整備し、市民生活の向上や賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名	都市構造再編集中支援事業（都市再生整備計画（長井駅前地区））（国

及び支援期間	土交通省）（令和２年度～令和５年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：全体で５０人増加 令和５年度で事業は完了した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画通りに進捗し、令和５年８月にプレオープン、９月にグランドオープンし、市内の方はもちろん県内外の方からご利用いただいている。施設全体の来館者数（Ｒ５．８．１１～Ｒ８．３．３１）は約８４万人となった。
計画終了後の状況及び事業効果	子育て世代活動支援センターは、子育て相談機能や一時預かり機能、屋内遊技場等を備えているため、子育て中の方々が家族や友人同士で外出できる環境として機能している。 多機能型図書館は、単なる本の貸し借りの場であるだけでなく、自宅、学校や職場に続く居心地の良い第三の場所（３rd Place）としての役割を果たしている。
事業の今後について	当施設の利用者がまちなかに回遊するように、市内事業者とも連携し、継続的な賑わいの創出に向けたソフト面での取組を実施していく。

⑤. 市庁舎・長井駅移転事業（長井市）

事業実施期間	令和２年度～令和３年度【済】
事業概要	令和２年度完成の新庁舎と長井駅の合築した建物へ市役所を移転するもので、分散していた役所機能を集約し市民の利便性の向上や賑わい創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：全体で１３０．２人増加 令和３年３月竣工、５月６日開庁。令和５年度のまちなか交流施設（建物南側の市民交流ホールや市民防災研修室、売店部分）の年間の利用者は約１２万人（１日あたり３３２人）であった。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画通りに進捗し、令和３年度に完了した。 本事業により分散していた役所機能を集約したことに加え、まちなか交流施設の利用により、世代を超えて居心地の良い空間となっている。
計画終了後の状況及び事業効果	長井駅と一体化し、分散した市役所機能を集約するとともに、防災拠点としての高い基準をクリアしたことで、市民の利便性向上を実現することができた。 駅のコンコースも兼ねた吹き抜けの開放感のある市民交流ホールには駅ピアノがあり、談話や憩いの場、学生の学習の場として幅広い年代の方々から利用されている。
事業の今後について	市庁舎市民交流スペースを活用した取組を実施することで、来庁者を増やし、駅周辺の回遊性を高めるための交流拠点のひとつとしての役割を担っていく。

●今後の対策

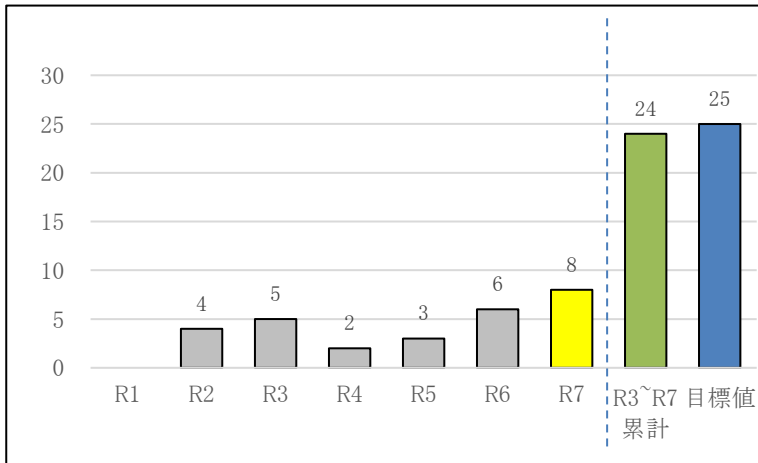
歩行者・自転車等通行量については、本市の観光の目玉である水陸両用バス等のアクティビティが令和５年度から中止となったことや令和７年度の熊の出没件数急増による外出控え等が目標未達成の大きな要因であるものの、令和６年度には数値が伸びたことや施設の利用者数も堅調に推移していることから、今後は、文教の杜等の市内観光施設を巡るツアーの造成や長井市内の土地や文化、環境を活かした観光商品の充実化と効果的な広報戦略を進めていくとともに、各事業内容について工夫、見直しを行い連携しながら実績を伸ばしていきたい。また次期計画では計測

地点を14箇所に増やすことで、より細かく事業効果の測定を図っていく。

(3)「空き地・空き店舗解消数」※目標設定の考え方認定基本計画

(目標の達成状況【B1】) ※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 70～P. 73 参照

●調査結果と分析



年	(件)
R1	—
(基準年値)	
R2	4
R3	5
R4	2
R5	3
R6	6
R7	8
R7	25
(目標値)	

※調査方法：市内5商店街における空き地・
空き店舗の数を毎年9～11
月のある1日を基準日と設定
して計測する。

※調査月：令和7年9月

※調査主体：長井市

※調査対象：市内5商店街



〈分析内容〉

(単位：件)

	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)	合計 (1年目 ～5年目)
本町商店街	2	2	1	1	3	1	8
あらまち商店街	1	1	0	0	1	0	2
駅前商店街	0	1	0	1	1	2	5
大町商店街	1	0	0	1	0	2	3
高野町商店街	0	1	1	0	1	3	6
合計	4	5	2	3	6	8	24

中心市街地における創業事業所数増加に向けた取り組みは概ね予定通り進めることができた。
令和7年度は、空き店舗を活用し開業したケースが5件、空き店舗・空き地が駐車場や住宅に整備されたケースが3件であった。中心市街地活性化区域外も含め、創業の相談件数が徐々に増えており、空き店舗等の利用が期待できる。今後は「くるんと」や各ソフト事業の効果により、新規出店や創業が促されると推察する。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 起業・創業支援事業（長井市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	空き地や空き店舗を活用して起業を希望する個人又は法人等に対して、賃借料の一部や広告宣伝費等について支援する事業
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：15件 最新値：6件（本事業活用件数のうち中心市街地区域内で空き店舗を活用した創業件数） 本事業の令和7年度の活用件数は2件であった。うち1件は中心市街地区域内で空き店舗を活用した創業であった。
達成した（出来なかった）理由	長井商工会議所等へ起業相談をされる方に対し、会議所の経営指導員から支援施策の紹介を積極的に行い、利用を促したが、補助要件に当てはまらず活用まで至らないケースが多かった。
計画終了後の状況及び事業効果	目標達成には至らなかったが、この事業によって中心市街地区域内で起業した事業者が継続して事業を行い、市や民間のイベントにも協力いただくことが増えており、賑わい創出に大いに寄与している。
事業の今後について	今後も事業を継続して実施し、空き店舗等を活用した起業支援を行っていく。

②. 都市計画道路鞆町成田線街路整備事業（山形県）

事業実施期間	平成23年度～令和5年度【済】
事業概要	都市計画道路鞆町成田線における道路拡幅、歩道整備及び無電中化を行い、歩きたくなる歩行空間を形成するもの。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（道路事業（街路））（国土交通省）（令和3年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：3件 令和5年度末で事業は完了した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は計画通りに進捗した。また起業・創業支援事業を活用した新規創業者の出店もあり、現在も継続して事業を行っている。
計画終了後の状況及び事業効果	街路整備事業にあわせて街路灯や道路拡幅、無電柱化を実施したことにより、交通面での利便性はもとより、景観形成や防犯にも寄与し、中心市街地にふさわしい重要な商店街通りとなった。また整備後には、道路を一時的に区間車両通行止めにし、飲食イベントを実施したり、交通規制をした道路でミニSLやフリーマーケット等のコンテンツを開催したりと整備後の道路を活用した賑わい創出に資するイベントの開催を行うことができ、まちなかの回遊に寄与している。
事業の今後について	今後も継続して、整備した街路をイベントで活用するなど、ソフト面での取組を検討していく。

③. 公共複合施設整備事業（長井市）

事業実施期間	令和２年度～令和５年度【済】
事業概要	多機能型図書館機能と子育て支援機能を併せ持つ複合施設を整備し、市民生活の向上や賑わいの創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集集中支援事業（都市再生整備計画（長井駅前地区））（国土交通省）（令和２年度～令和５年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：２件 令和５年度で事業は完了した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画通りに進捗し、令和５年８月にプレオープン、９月にグランドオープンし、市内の方はもちろん県内外の方からご利用いただいている。施設全体の来館者数（R5. 8. 11～R8. 3. 31）は約８４万人となった。
計画終了後の状況及び事業効果	子育て世代活動支援センターは、子育て相談機能や一時預かり機能、屋内遊技場等を備えているため、子育て中の方々が家族や友人同士で外出できる環境として機能している。 多機能型図書館は、単なる本の貸し借りの場であるだけでなく、自宅、学校や職場に続く居心地の良い第三の場所（3rd Place）としての役割を果たしている。
事業の今後について	当施設の利用者をまちなかに滞留させ、中心市街地での出店を促していく。

④. 市庁舎・長井駅移転事業（長井市）

事業実施期間	令和２年度～令和３年度【済】
事業概要	令和２年度完成の新庁舎と長井駅の合築した建物へ市役所を移転するもので、分散していた役所機能を集約し市民の利便性の向上や賑わい創出を図るもの。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値：５件 令和３年３月竣工、５月６日開庁。役所機能を集約したことに加え、駅と一体化したことにより利便性が向上した。また、市役所前を会場とするイベントの実施により賑わいの創出に繋がっている。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画通りに進捗し、令和３年度に完了した。 本事業により分散していた役所機能を集約したことに加え、まちなか交流施設の利用により、世代を超えて居心地の良い空間となっている。
計画終了後の状況及び事業効果	長井駅と一体化し、分散した市役所機能を集約するとともに、防災拠点としての高い基準をクリアしたことで、市民の利便性向上を実現することができた。 駅のコンコースも兼ねた吹き抜けの開放感のある市民交流ホールには駅ピアノがあり、談話や憩いの場、学生の学習の場として幅広い年代の方々から利用されている。
事業の今後について	市庁舎交流スペースを活用した取組を実施することで、来庁者を増やし、駅周辺の回遊性を高めるための交流拠点のひとつとしての役割を担っていく。

●今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているが、各事業の効果は十分に発現できておらず、「くるんと」からまちなかへの回遊を促すことができていないため、中心市街地での出店を促せるような環境がまだ整備しきれていない状況である。今後も継続して「くるんと」利用者呼び込む取組をするとともに、官民連携して地域の魅力を広く発信し、継続的な賑わいの創出を図り、まちなかの魅力を高め、中心市街地への投資や創業意欲の向上を促していきたい。また（一社）やまがたアルカディア観光局による中心市街地の文化財や施設を生かした旅行商品の開発や市内への滞在型旅行商品のラインナップの充実等、広域的な連携による誘客強化を図り、まちなか観光客数の増加を目指していく。